

習熟度の異なる学習者に対する授業の可能性と課題 ： 初級日本文化クラスの実践を通して

著者	鈴木 秀明, ヨフコバ 四位エレオノラ
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	29
ページ	93-104
発行年	2014-02
その他のタイトル	Potentialities and Problems of Courses for Learners with Differing Degrees of Mastery : a report on a Japanese culture class for the elementary level
URL	http://hdl.handle.net/2241/121203

習熟度の異なる学習者に対する授業の可能性と課題

—初級日本文化クラスの実践を通して—

鈴木 秀明 ヨフコバ 四位エレオノラ

要 旨

本稿では、レベル差のある初級学習者を対象に合同で実施した日本文化クラスの実践および教師の振り返りについて報告する。授業では多様な背景を持ち、レベル差のある学習者間の協働を活性化するために、授業活動にピアラーニングを取り入れた。コース終了時に実施した学習者アンケート結果から、各活動に対する満足度と有用度が高いことがわかった。また、ピアラーニングに対しても肯定的に捉えていた。さらに、教師の振り返りを通して、レベル差のある学習者のクラス運営には、教師が適切な配慮を行うとともに、学習者間の協働が非常に重要であることも認識された。

【キーワード】 初級学習者 レベル差 日本文化 ピアラーニング 協働

Potentialities and Problems of Courses for Learners with Differing Degrees of Mastery : a report on a Japanese culture class for the elementary level

SUZUKI Hideaki, YOVKOVA SHII Eleonora

【Abstract】 This is an introspective report on a joint Japanese culture class for elementary level learners with differing degrees of mastery. The class activities were based on peer learning in order to activate the cooperation of the learners who had different backgrounds and differing degrees of mastery. At the end of the course, we conducted a questionnaire. Results were indicative of a high degree of satisfaction and usefulness in regard to the activities of the course. Also, the learners gave positive evaluations in regard to the peer learning process. Again, on the basis of the teachers' introspection, we recognized the importance of the teacher's role in class activities, and of cooperation between the learners in order to manage a course with learners with differing degrees of mastery.

【Keywords】 elementary level learners, differing degrees of mastery,
Japanese culture, peer learning, cooperation

1. はじめに

筑波大学留学生センターでは、大使館推薦を受けた大学院進学目的の国費留学生を世界各国から受け入れている。彼らは、来日後、まず日本語集中コース（以下、予備教育とする）を受講して基礎的な日本語能力の習得を図りつつ、大学院受験準備を進めている。

留学生センターでは、予備教育の受講者に効果的で有用な授業を提供するために、日々工夫を凝らした実践を行っているが、これまでの成果として、夏学期¹の授業実践を振り返った石上他（2011）や、初級学習者を対象に発音矯正に取り組んだ石上（2012）などが報告されている。

本稿では、2013年度の春学期に予備教育の初級学習者を対象に実施した日本文化クラスの授業実践および学期末に実施した学習者アンケート結果について報告する。そして、レベル差があるクラス運営を行う上での事前準備、授業活動、教師の役割に関して検討していく。

2. コース概要

筑波大学は2013年4月より春学期、秋学期の2学期制に移行し、各学期15週間で行われることになった。予備教育の授業は1日4コマ（1コマ75分）で週5日の合計20コマであり、内訳は日本語クラスが週18コマ、日本文化クラスが週2コマである。本稿では日本文化クラス2コマの中の1コマについて報告する。以下では、対象学習者、授業内容、使用教材、授業活動、教師の工夫について順に述べる。

2.1 対象学習者

本実践に参加した学習者は、来日時に日本語学習歴が全く無い未習者で構成された初級前半クラス9名と、来日前に一定期間の日本語学習歴があり、基礎日本語力のある初級後半クラス7名の合計16名であった。また、学習者の国籍は14か国であり、全員非漢字圏出身であった。表1に両クラスの学習者数と国籍を記す。

表1 クラスの構成

ク ラ ス	初級前半	初級後半
学習者数	9 名	7 名
国 籍	フィリピン 2名 スリランカ アンティグア・バーブータ アンゴラ ギニア セネガル チュニジア モザンビーク	ブラジル 2名 インドネシア キューバ チリ セルビア ポルトガル

2.2 授業内容および使用教材

本実践は、初級前半クラスおよび後半クラスの担当教師2名によるティームティーチングで実施された。コース開始時に日本文化クラスで学習者に何を教授するかについて、教師間で検討した。そして、学習者が日本で留学生活を送る上で有用だと思われるものを中心にトピックを選定した。また、多様な背景を持つ学習者が在籍していることから、学習者の文化の相互学習が可能なトピックも取り入れた。さらに、学習者のニーズを反映するために、初回の授業で学習者に関心のあるトピックを聞き出し、有用であると判断したものも取り入れた。表2に本コースで実施したトピックを示す。

表2 日本文化クラスで実施したトピック

	トピック	コマ数
1	自己紹介	1
2	日本のクイズ	1
3	私の国のおもしろいもの	2
4	日本のマナー	2
5	私の好きな日本人	1
6	日本の昔話	7
7	日本のカルタ	1

以下では、各トピックの内容について述べる。トピック1の「自己紹介」では、初対面の相手とのコミュニケーションの際の日本語表現およびコミュニケーションストラテジーを紹介した。続くトピック2の「日本のクイズ」では、日本の名所（富士山）、食物（すき焼き）、花（桜）などを学習者に問い、日本知識の有無を確認した。トピック3は「私の国のおもしろいもの」を取り上げ、学習者の出身国の衣食住および慣習、伝統が反映されているものを準備させ、他の学習者に紹介・説明させた。なお、このトピックの際には、一見しただけでは何かわからない意外性のあるものを準備させるように指示した。トピック4の「日本のマナー」は学習者の要望で取り上げたもので、日本人の家を訪問する際に必要とされる一連のマナーを学習した。また、学習者が疑問に感じていた日本人のコミュニケーションやマナーに対する質問に対して、教師が回答した。そして、トピック5の「私の好きな日本人」は、各学習者が関心を持っている分野に関連する人物を紹介する活動を実施した。

コース中盤のトピック6では、「日本の昔話」を取り上げ、複数回にわたり日本人の生活、習慣・慣習、地理、歴史等を学習した。最後のトピック7である「日本のカルタ」で

は、学習者に日本語でカルタを作成させ、完成品を使用して大学内の和室においてカルタ大会を開催した。

使用教材は、コース前半は学習者の日本語力（語彙力、読解力）を考慮し、写真、絵、レアリアを中心とした。そして、コース後半の「日本の昔話」では、日本人の子供向けのDVDや絵本を使用した。また、「日本のカルタ」では、予備教育の文字クラスで学習者に作成させた「つくばカルタ」を使用した。

2.3 授業活動および教師の工夫

習熟度が異なり、多様な文化背景を持つ学習者がいる初級日本文化クラスにおいて、学習者の負担を軽減し、一定の満足度を与えるには、教師による一方的な知識の伝達という教室活動では不十分であると担当教師は考えた。そこで、学習者の学びを支援するという言語教育観に立ち、学習過程で学習者に仲間の存在意義を感じさせ、学習者同士の気づきを促進する活動を提唱している池田・館岡（2010）のピアラーニングを本実践に取り入れることにした。

また、ピアラーニング以外にも、レベル差のあるクラス運営をする際に様々な試みを実施した。以下では、授業活動および教師の工夫について説明する。

第一に、活動形態について述べる。学習者の出身国が14カ国に渡っていたため、授業の中心をグループ活動にした。グループ編成は、出身国の異なる4名の学習者を1グループとし、各グループには初級前半の学習者と後半の学習者を配した。また、グループ編成はトピックごとに変更し、コースを通して様々な学習者とのグループ活動を体験させた。

第二に、授業の流れを紹介する。まず、授業冒頭で2名の教師がその日の内容と目的を説明した。その後、教師が活動モデルを学習者に提示して、内容を理解させてから、グループ活動に移った。そして、授業の最後には活動のまとめとして、個人あるいはグループで発表させた。

第三に、授業内での媒介語の使用を挙げる。初級前半クラスの学習者は、コース開始時の日本語能力が極めて低かったため、学習目的や活動手順を正確に理解させるために、教師の説明は日本語と英語の両言語で行った。本実践の担当教師2名が日本語母語話者と非日本語母語話者であったことから、教師の負担はなかった。また、日本文化クラス内では可能な限り日本語で話すように学習者に促したが、グループ活動を円滑に進め、トピックの内容に意識を向けさせるために、日本語以外の言語使用も許可した。さらに、グループ内の日本語力の高い学習者には、日本語力の低い学習者に対する日本語支援を依頼した。

最後に、教師の役割について述べる。教師は授業冒頭で内容と目的を説明し、活動モデルを提示した後には机間巡視を行い、グループ活動が滞らないように学習支援を行った。そして、問題が生じた場合や、学習者からの質問があった場合に対応した。授業の最後に

は活動に対する全体フィードバックを行った。

3. 学習者アンケート

3.1 実施時期、方法、質問項目

コース最終日に今後の授業改善を目的とし、学習者アンケートを実施した。調査はアンケート用紙（巻末資料「授業終了時アンケート」）を用い、16名の学習者を対象に実施した。

質問は、授業活動に関する3問（5段階評価および自由記述回答）とトピックに関する1問（自由記述回答）の計4問とした。質問は日本語と英語の両言語で表記され、日本語、英語のいずれでも回答可とした。

アンケートの5段階評価は、質問1では数字の高い順に「大変面白い(5)」、「やや面白い(4)」、「どちらでもない(3)」、「あまり面白くない(2)」、「面白くない(1)」とした。一方、質問2と3では、「大変役に立つ(5)」、「やや役に立つ(4)」、「どちらでもない(3)」、「あまり役に立たない(2)」、「役に立たない(1)」とした。また、5段階評価以外に、各活動に関してコメントや感想を記述する欄も設定した。

アンケートの質問項目は表3の通りである（なお、アンケートの具体的内容は、巻末資料「授業終了時アンケート」を参照されたい）。

表3 学習者アンケート（簡略版）

1. 木曜日の4時間目の活動はおもしろかったですか。
活動：日本のクイズ、日本のマナー、好きな日本人、日本の昔話、カルタ大会
2. これらの活動は日本の社会、歴史、文化、生活を理解するのに役立ちましたか。
3. 下の活動は、あなたの日本語の勉強に役に立ちましたか。
活動：①A・Dクラスで一緒に勉強したこと、②日本語でいろいろなテーマでプレゼンテーションしたこと、③日本語で昔話を見たこと、④日本語で昔話を読んだこと、⑤日本語で昔話のスク립トを書いたこと、⑥カルタ大会でカルタをとったこと
4. 「お楽しみクラス」で取り上げてほしいテーマがあったら、書いてください。

3.2 回答結果

以下では各質問の回答結果を述べる。まず、質問1の「木曜日の4時間目の活動はおもしろかったですか」の回答結果は表4の通りである。

各トピックに対する学習者の回答結果で、5（大変面白い）と4（やや面白い）の割合を合計したところ、5つのトピックはいずれも75%以上であり、学習者は各活動に対して面白いと感じていたことがわかった。

5つの活動の中で、最も学習者の評価が高かったのは、「日本の昔話」であった。「大変面白い」の5点で回答していた学生は14名で、全体の88%を占めていた。続いて、「カル

タ大会」が81% (13名)、「日本のマナー」が75% (12名)の順であった。一方、「私の好きな日本人」は44% (7名)、「日本のクイズ」は38% (6名)だった。そこで、自由記述回答を見たところ、学習者の日本に関する知識が限られていて、低評価だったと思われる。

表4 活動のおもしろさ

	5 大変面白い	4 やや面白い	3 どちらでもない	2 あまり面白くない	1 面白くない
日本のクイズ	7 (44%)	7 (44%)	2 (12%)	0 (0%)	0 (0%)
日本のマナー	12 (75%)	4 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
私の好きな日本人	6 (38%)	6 (38%)	3 (19%)	1 (6%)	0 (0%)
日本の昔話	14 (88%)	2 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
カルタ大会	13 (81%)	3 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

また、学習者の自由記述回答には、「大変チャレンジで、よかった」、「日本人のことがよりよく理解できるようになった」、「日本の生活にはより早く溶け込むことができた」、「日本の生活について様々な知識を得たことによって、事前に失敗が防げた」、「ほかの授業で習ったことが活かされた」(筆者訳)などが挙げられており、学習者の満足度には有用度が関係していることがうかがえた。

次に、質問2「これらの活動は日本の社会、歴史、文化、生活を理解するのに役に立ちましたか」に対する回答結果を表5に示す。各トピックに対する学習者の回答結果の中で、5(大変役に立つ)と4(やや役に立つ)を合計したところ、「私の好きな日本人」は56%と高くなかったが、それ以外の4つのトピックは75%以上であった。よって、これらの活動は学習者が日本の社会や文化を理解し、日本の生活に馴染む上で有用であったと思われる。

また、全活動の中で学習者が最も役に立ったと感じていたのは、「日本のマナー」と「日本の昔話」であり、ともに81% (13名)の学習者が5点で回答していた。

表5 活動の有用度(知識面)

	5 大変役に立つ	4 やや役に立つ	3 どちらでもない	2 あまり役に立たない	1 役に立たない
日本のクイズ	6 (38%)	6 (38%)	3 (19%)	1 (6%)	0 (0%)
日本のマナー	13 (81%)	3 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
私の好きな日本人	4 (25%)	5 (31%)	5 (31%)	2 (13%)	0 (0%)
日本の昔話	13 (81%)	3 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
カルタ大会	7 (44%)	6 (38%)	3 (19%)	0 (0%)	0 (0%)

自由記述回答には、学習者が文化クラスで取り入れたグループ活動を通じて、日本の社会、文化、生活等に関する知識を習得していたことがうかがえるコメントもあった。

そして、質問3「活動は日本語の勉強に役に立ちましたか」の回答結果は表6の通りである。本質問にはクラスで行った活動以外に、レベル差のある合同クラスの可能性について問う項目（「A・Dクラスで一緒に勉強したこと」）も入れた。各トピックに対する学習者の回答結果の中で、5（大変役に立つ）と4（やや役に立つ）の割合を合計したところ、「昔話を書いたこと」は69%であったが、それ以外の4つのトピックはいずれも75%以上であり、5つの活動は概ね日本語学習において有用であることがわかった。

回答結果をさらに詳しく見ると、学生が日本語の勉強に最も役に立ったと感じていた活動は「日本語で昔話を見たこと」であり、75%（12名）の学習者が5点で評価をしていた。次いで、「A・Dクラスで一緒に勉強したこと」および「日本語でいろいろなテーマでプレゼンテーションしたこと」の2つがともに69%（11名）であった。

表6 活動の有用度（日本語学習面）

	5 大変役に立つ	4 やや役に立つ	3 どちらでもない	2 あまり役に立たない	1 役に立たない
合同クラスでの学習	11 (69%)	3 (19%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)
プレゼンテーション	11 (69%)	4 (25%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
昔話を見たこと	12 (75%)	4 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
昔話を読んだこと	10 (62%)	6 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
昔話を書いたこと	9 (56%)	2 (13%)	5 (31%)	0 (0%)	0 (0%)
カルタ大会	8 (50%)	4 (25%)	4 (25%)	0 (0%)	0 (0%)

さらに、この質問に対する学習者の自由記述回答には、ピアラーニングに対する言及も見られた。「レベル差のある合同クラスで勉強したことによって、様々な知識をシェアするよいチャンスとなり、下のレベルの学生が上のレベルの学生に助けをもらい、よい勉強になった」というものや、「レベル差のある合同クラスで勉強したことが語彙を増やすためのよい機会となった」（筆者訳）などは、合同クラスでの勉強が学生にとって有意義であったことを示している。

最後の質問4の「お楽しみクラスで取り上げてほしいテーマ」では、学生から様々な提案や意見が出されたが、その範囲は非常に多岐に渡るものであった。そこで、国際交流基金（2010）を参考にして、学習者から出された希望テーマを分野ごとに分類した（表7）。この結果から、学習者は社会生活を知る上で必要な情報と日本を深く理解するために必要な情報の両方の側面に関心を抱いていることがうかがえる。

表7 学習者から出された希望テーマ

範 囲	分 野	希望テーマ
社会生活を知る上で必要な情報	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門用語や専門発表で役立つ表現 ・ 観光案内書に載っていないこと ・ 料理やお菓子
日本を深く理解するために必要な情報	伝統・芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道 ・ 折り紙 ・ 日本映画 ・ 日本の歌
	社会・人文科学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の大学と他の国の大学の違い ・ 日本の歴史的な所 ・ 血液型

さらに、アンケートの自由記述回答には、日本文化クラスの授業運営に対する意見やクラス全体に対する感想も見られた。以下、表8で紹介する。

学習者Aのコメントはクラス運営に関するものであるが、学習者は授業活動に参加しつつ、クラス運営を客観的に分析していたことがわかった。また、学習者Bのコメントでは、ピアラーニングを肯定的に受け入れ、学習者に受益をもたらしていたことがうかがえる。そして、学習者Dのコメントからは、クラス運営に対する学習者の要望も明らかになった。この点に関しては、教師の振り返りと今後の課題の部分で述べる。

表8 日本文化クラスに対する感想や意見（筆者記）

学習者	コメント
A	クラスはよく構成されており、学習プロセスにも様々なアプローチがなされ、大変よかった。
B	「お楽しみクラス」の授業を毎回楽しみにしていた。
C	皆で知識をシェアしながら学んだことがよかった。また、学生同士で助け合いながら学ぶという学習スタイルの工夫がよかった。
D	クラスでの活動の際、学生の理解を助けるためには、英語も使われたが、理解に少々支障があっても、すべてを日本語で行ってほしかった。

4. 教師の振り返り

コース終了時の学習者アンケート結果から、本実践が学習者にとって満足度および有用度が高いことが明らかになった。その一方、学習者は文化クラスの実施に関する要望があることもみえてきた。そこで、以下では教師による振り返りを通して、この点について検

討する。

今回、レベル差のあるクラス運営を行う際に、教師は学習者の負担を軽減し、理解度を高めるために、トピック選択、活動形態、授業内容などで様々な工夫を試みたが、これらの配慮が学習者の満足度や有用度につながったと考える。この点は、表8の学習者Aのコメントおよび学習者Cのコメントにも反映されていた。

また、学習者Cのコメントからは、ピアラーニングを肯定的に捉えていたこともわかった。ピアラーニングに対するコメントは、先述した質問3の学習者の記述回答の中にも、「レベル差のある合同クラスで勉強したことによって、様々な知識をシェアするよいチャンスとなり、下のレベルの学生が上のレベルの学生に助けをもらい、よい勉強になった」、「レベル差のある合同クラスで勉強したことが語彙を増やすためのよい機会となった」(筆者訳)として見られたが、いずれも学習者にとって有意義であり、ピアラーニングが本実践において機能していたと思われる。

この点に関して、王(2010)では、習熟度の異なるペア活動の中で習熟度の高いパートナーも習熟度の低いパートナーもいずれも受益を受けていると述べているが、今回の日本文化クラスにおいても、日本語力の高い学習者が低い学習者を支援することに加え、学習者の協働を通して、高い学習者も低い学習者から受益を受けていた可能性がある。

事実、担当教師は、トピック6の「日本の昔話」のグループ活動において、学習者間の活発な協働を目の当たりにした。このトピックでは、各グループに興味のある昔話を選択させ、他のグループにその内容を日本語で説明するという課題を与えた。学習者は各グループの中で、DVDを見る人、メモを取る人、辞書でわからない単語を調べる人、日本語でスクリプトを書く人など役割分担を行い、作業を進めていた。その際の役割分担は各学習者の得意なものや貢献できるものとなっていた。さらに、グループ内で司会者やリーダーなども決められ、全員の協働により円滑に課題が遂行されていた。したがって、学習者はこのグループ活動を通して、仲間の存在意義を実感していたと思われる。

5. 今後の課題とまとめ

以上、初級日本文化クラスの授業実践、学習者アンケート、教師の振り返りについて述べた。コース終了時の学習者アンケート結果では、トピックや授業活動に対する学習者の満足度および有用度が高かった。また、グループ活動に対する肯定的な回答が多く見られ、本実践で取り入れたピアラーニングが機能していたこともわかった。

一方、学習者アンケートには、トピックや授業方法に対する意見もあった。クラス内の使用言語を日本語と英語で実施したのは、教師の配慮によるものだったが、学習者にはマイナスに作用してしまったようだ。したがって、媒介語の使用に関しては今後検討する必要がある。

最後に、レベル差のある学習者に対する授業を行う際の留意点を2点述べる。

一点は、レベル差のあるクラスでは、学習者の能力や背景を考慮し、教師が適切な配慮を行うことが望ましい。本実践では大きな問題がなかったが、学習者が変わると今回と同様の結果になるとは限らない。したがって、学習者の日本語力や背景を注視し、その場に応じたクラス運営を行うことが必要である。

もう一点は、レベル差のあるクラス運営を教師のみの力で行うのは、やはり限界がある。そこで、レベル差のあるクラス環境を肯定的に捉え、習熟度の異なる学習者をリソースとして活用することを提案する。その際にピアラーニングを取り入れることで学習者間の協働が促進され、教師の負担が軽減されるだろう。本実践は日本文化クラスであったが、他の日本語科目においても、ピアラーニングはクラス運営を円滑にするものとして、その効果が期待される。

筑波大学の予備教育には、習熟度の異なる学習者がともに学ぶ初級日本文化クラスが設定されている。今後も担当教師で授業改善を行い、学習者に満足度と有用度の高い授業を提供していきたい。

注

1. 筑波大学留学生センターでは、2012年度まで3学期制をとっており、1学期終了後に夏学期の授業を開講していた。

参考文献

- 池田玲子・舘岡洋子 (2007) 『ピアラーニング入門—創造的な学びのデザインのために』
ひつじ書房
- 石上綾子 (2012) 「予備教育初級前期における音読を通じた撥音矯正の実践報告」『筑波大学
留学生センター日本語教育論集』27: 105-114
- 石上綾子・柳田しのぶ・宮崎恵子・平形裕紀子 (2011) 「2010年度日本語予備教育夏学期
コース報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』26: 99-115
- 王文賢 (2010) 「習熟度が異なるペアにおける協力的対話と日本語の習得の効果—7つの
文法項目に焦点を当てて—」『日本言語文化研究会論集』第6号
- 国際交流基金 (2010) 『日本事情・日本文化を教える 国際交流基金日本語教授法シリーズ
11』ひつじ書房

資料「授業終了時アンケート」

1. 木曜日の4時間目の活動はおもしろかったですか。○をつけてください。

Were the activities on Thursday 4th period interesting? Please circle the appropriate one.

また、コメントがあったら書いてください。Please write any comment you want.

interesting おもしろかった ⇔ おもしろくなかった not interesting

トピック topic	5	4	3	2	1	感想・コメントがあったら書いてください free comments
①日本のクイズ Quiz "Japan"						
②日本のマナー Japanese manners						
③私の好きな日本人 My favorite Japanese person						
④日本の昔話 Folk tales						
⑤カルタ大会 Karuta						

2. これらの活動は日本の社会、歴史、文化、生活を理解するのに役立ちましたか。○をつけてください。Do you think the activities were useful and helped you to understand the

Japanese society, history, culture and life? Please circle the appropriate one. また、コメントがあったら書いてください。Please write any comment you want.

useful 役に立った ⇔ 役に立たなかった not useful

トピック topic	5	4	3	2	1	感想・コメントがあったら書いてください free comments
①日本のクイズ Quiz "Japan"						
②日本のマナー Japanese manners						
③私の好きな日本人 My favorite Japanese person						
④日本の昔話 Folk tales						
⑤カルタ大会 Karuta						

3. 下の活動は、あなたの日本語の勉強に役に立ちましたか。○をつけてください。

Do you think the following types of activities are useful for the study of Japanese? Please circle the appropriate one. また、コメントがあったら書いてください。Please write any comment you want.

useful 役に立った ⇔ 役に立たなかった not useful

トピック topic	5	4	3	2	1	感想・コメントがあったらかいてください free comments
①A・Dクラスで一緒に勉強したこと Joint classes for A and D						
②日本語でいろいろなテーマでプレゼンテーションしたこと Presentation on different topics in Japanese						
③日本語でむかしばなしを見たこと Watching Japanese folk tales						
④日本語でむかしばなしを読んだこと Reading Japanese folk tales						
⑤日本語でむかしばなしのスク립トを書いたこと Writing the scripts of the Japanese folk tales						
⑥カルタ大会でカルタをとったこと Karuta competition						

4. 「お楽しみクラス」で取り上げてほしいテーマがあったら、書いてください。

If you have any special requests for the topics that should be treated in the “otanoshimi kurasu”, please write.